

## P2-005

### 保育園看護師の保育保健活動における多職種との連携に関する思いと実践

小田 香澄<sup>1</sup>、南前 恵子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>島根県立大学看護栄養学部 看護学科

<sup>2</sup>鳥取大学医学部 保健学科

#### 【目的】

近年、保育園における保育保健の領域が拡大し、保育園看護師の活動が重要になっている。多職種連携においても保育園看護師の存在は欠かせない。そこで、保育園看護師の保育保健活動における多職種との連携に関する思いと実践を明らかにすることを目的とした。

#### 【方法】

A市内の認可保育園に所属する保育園での勤務年数が3年以上の看護師7名を対象にインタビューを実施して逐語録を作成し、KJ法を用いて内容をまとめた。本研究は、鳥取大学医学部倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号1706A058)。

#### 【結果】

逐語録から言語のラベル化を行い、多段ピックアップ法により精選した元ラベル55枚から「志」の近いラベルを集めグループを作成した。最終的に11の島に統合された。保育園看護師は多職種との連携において重要なこととして《強みを生かした役割分担》をあげていた。これは、《基本はコミュニケーション》によって同じ園内の保育士と関係を構築し、保育士を理解する《保育士の理解と尊重》を基盤としている。多職種と《情報共有》してそれぞれの《強みを生かした役割分担》し協働することによって、《安全を守るための連携》や《園外の機関との活動》へ波及し、また《取組の成果》を実感していた。しかし《個人情報保護が壁》といった連携上の課題も感じていた。多職種との連携を重要と捉えながら、《保護者を介して》連携することも意識していた。また、《看護師同士のつながり》や、保育士から看護師が《安心される存在》と認識されることが看護師の専門性の発揮を強化する因子となっていた。

#### 【考察】

看護師が多職種との連携において重視していることは、各職種の《強みを生かした役割分担》である。多職種とつながる力＝連携力が重要と捉え、保育士だけでなく多くの職種と連携することで、園児、家族へのより良い支援へつながることを自覚していた。また、看護師が専門性を発揮し、保育園で安心して活動していくための、A市内における保育園看護師のネットワークづくりの必要性が示唆された。看護師は、先を見据えた保護者支援という考えの元で《保護者を介した連携》を行っていることが明らかとなった。保護者が本来持つ能力を引き出し、保護者自身が行動できるようになることに視点を当てた保護者支援のあり方が求められる。